



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

エジプト：新大統領の経歴等

(25～27日付アハラーム紙ほか)

研究員 江崎 智絵

1. 新大統領の経歴

ムルシーは、シャルキーヤ県の村で1951年に生まれた。75年にカイロ大学を卒業（工学学士）した後、82年に米国南カリフォルニア大学で博士号（工学）を取得し、85年にエジプトに帰国するまでカリフォルニア・ノースリッジ大学でティーチング・アシスタントとして教鞭をとっていた。エジプト帰国後は、カイロ大学の工学部等で教えた。92年、同人は、ムスリム同胞団の政治部門との関係を持ち始めたといわれている。95年に人民議会に立候補し、2000年に当選した。同人の5人の子供のうち2人は、米国籍を保有している。

2. ムルシー大統領とタンターウィ国軍最高会議議長との会談

2012年6月25日、ムルシー大統領は、国防省においてタンターウィ国軍最高会議議長と大統領選挙後初の会談を行い、国軍が革命後の移行期において国政を統治し、透明性ある大統領選挙の実施に重要な役割を果たしたことに感謝を表明した。また、同大統領は、「国軍は多くの困難からエジプトを防衛し、偉大なエジプト国民の意思を尊重した」との趣旨を述べ、国軍の役割を称賛した。

これに対し、タンターウィ議長は、「国軍は革命の当初からエジプトの国益を保護し、正義と尊厳を求めて革命に乗り出したエジプト国民の自由を擁護するという目的のため全ての政治勢力に対して公平に対応してきた。今後とも、国民の意思によって選ばれた正統な大統領を支援していく」との趣旨を発言した。

3. 新内閣の発足に向けた動き

大統領選挙の結果を受け、新内閣の発足に向けて諸政党との協議を開始したムルシー大統領は、6月26日、キリスト教徒や女性等のリベラル派による新内閣への参画について了承を得た。また、新首相候補としては、エルバラダイ前IAEA事務局長の名前が挙がっている。

大統領選挙の決選投票では、若者によるムルシーへの支持も多かったようである。ムルシーは、副大統領や副首相といったポストに若者を登用するともみられている。しかし、大統領選挙の公式結果が発表されると、ムバーラク前政権に対する抗議活動の中心となった若者らの「4月6日運動」は声明を発表し、ムルシーに対する支持が旧政権の関係者による政権復帰を防ぐためのものであり、同人大統領就任に際してもムルシー政権には参加せず、今後も在野で政権の監視という役割に徹するとの立場を明らかにした。

4. シャフィーク元首相のエジプト出国

6月25日、大統領選挙に敗北したシャフィークは、汚職に関する同人等に対する公式調査が開始された翌日、アラブ首長国連邦（UAE）に向け出国した。報道によると、シャフィークは、サウジアラビアでの巡礼を終えた後、エジプトに帰国し、新党を結成する模様である。